

税金はみんなで支える社会のお財布

所沢市立狭山ヶ丘中学校

三年 中村 想

「税金」と聞くと正直あまり良いイメージはありませんでした。ニュースで「増税」や「消費税が上がる」という言葉を耳にする度に「なんだか損をするもの」という印象があったからです。しかし調べていくうちに税金は私たちの生活の中で大切な役割を果たしており、自分のためではなくみんなのため、そして未来のために必要なものだとわかりました。

例えば私たちが毎日通っている学校も税金によって支えられています。教科書代が無料なのも、教室の冷暖房が使えるのも、体育館や図書室などの施設があるのも、すべてが税金のおかげです。もし税金がなかったらこれら全てを家庭で負担する必要が出てきてしまうのではないのでしょうか。そのように考えると税金は「損をするもの」ではなく「支え合うためのお金」なのだと感じます。学校以外にも様々な場面で暮らしを豊かにしてくれるのです。これらを踏まえて税金はまるでみんなで出し合って作る共同のお財布のようなものだと思えます。国全体でみんなが少しずつお金を出し合って生活を支え合っているのです。

将来私はさらに税金の大切さを実感することになるのではないかと思います。現段階では考えるのも難しいですが自分が高

齢になって働けなくなったときには年金や医療費などが必要になるでしょう。そのときに支えになるのも税金です。私たちが大人になったとき次の世代の子どもたちにも同じように安全な生活を届けるためには税金が重要になってくるのです。つまり税金は「今」の自分たちだけではなく「未来」の自分たちやこれから生まれてくる人たちのためにもなくてはならないものなのです。もちろん大切な税金が無駄に使われてしまうことがないようにしっかりと管理が大事だと思います。ですが税金そのものを悪いものと決めつけて考えるのではなく、どのように使われているのかをしっかりと理解した上で「自分たちの生活のために必要なもの」として考えていくことが大切なのではないでしょうか。

私は大人になり消費税以外の税金も払う立場になったときにマイナスなイメージを持つのではなくみんなと未来を支えたいと捉えることができるようになりたいです。そうすることで税金に対する考え方も自然と前向きになると思います。税金はみんなで作る社会を支える大事な土台のようなものです。これからもその重要さを忘れずに自分にできることは何かを考えて行動をすることができると目指していきたいです。